

鳥羽市議会改革推進特別委員会会議録

令和4年5月10日

○出席委員（12名）

委員長 坂倉 広子
委員 南川 則之
委員 瀬崎 伸一
委員 奥村 敦
委員 中世古 泉
委員 浜口 一利

議長 木下 順一

副委員長 山本 哲也
委員 濱口 正久
委員 片岡 直博
委員 河村 孝
委員 戸上 健
委員 坂倉 紀男

○欠席委員（1名）

委員 世古 安秀

○職務のために出席した事務局職員

事務局長 岩井 太
議事総務係書記 岡村 なぎさ

次長兼
議事総務係長 平山 智博

(午前 9時57分 開会)

○坂倉広子委員長 皆さん、おはようございます。

ただいまから議会改革推進特別委員会を開催いたします。

なお、世古安秀議員におかれましては、欠席する旨の報告がありましたのでご承知おき願います。

これより議事に入ります。

本日ご協議いただく案件は、事項書のとおりです。

それでは、協議事項1、TOBAミライトークについてを議題といたします。

まず、昨日、申込期限となっております参加申込みの状況について、事務局から説明をさせます。

○平山次長兼議事総務係長 事務局、平山です。よろしくお願います。

私のほうから、昨日の締め切りました参加の申込みについて、報告のほうをさせていただきます。

参加者が3名、傍聴希望が3名となっております。意見の内訳としましては、参加者のうち減員すべきという意見の方が2名、現状維持の方が1名、傍聴希望の方のうち減員すべきが2名、現状維持または増員が1名という形となっております。

事務局からの報告は以上です。

○坂倉広子委員長 事務局の説明は終わりました。

今回のTOBAミライトークにつきましては、当初15名ほどの参加者を見込んでおりましたが、想定ほどの申込みがありませんでした。

そこで、5月15日の開催そのものも含めて、TOBAミライトークについて協議したいと思います。

それでは、皆様にご意見をいただきたいと思いますので、それぞれよろしくお願いたします。

山本副委員長。

○山本哲也委員 今回募集をかけさせていただきまして、広報とば、あと議会だよりとさせていただきまして、またSNSのほうでもさせていただきましたが、当初、先ほど委員長からも説明ありましたとおり、15名ほどを見込んでしておりましたけれども、参加希望が3名というところで、じゃどうしようかというところがこれから話し合っていたいただきたい内容です。

候補としましては、予定どおりに3名でも、傍聴3名も含めて開催するということが1つ。もう一つは、延期して再募集をしてみてもどうかというところが1つ。それと、もう3名と、定員に満たなかったということで、希望いただいた方から何らかの形で意見を聞きながら、開催せず進めるというところ、この3点ぐらいが候補になるのかなというところやと思いますので、ちょっと皆さんの意見、考えを聞かせていただいて決めていきたいなというところで、ちょっとお時間を取らせていただきたいなというところがございますので、皆さんのご意見、お考えをちょっとお聞かせいただきたいというふうに思いますので、よろしくお願いたします。

○坂倉広子委員長 ありがとうございます。

濱口正久委員、どうぞ。

○濱口正久委員 今回応募が少なかったわけなんですけれども、問合せ自体も例えば少なかったのか。

というのは、そもそも延期しているときに、観光に携わる方が多くて日曜日の昼間があかんという話なのか、

それともそもそも少なかったのかというのがちょっとよく見えてこないで、もし日曜日の昼は行けへんわという声があるんやったら、日を変えとかというのもありやと思うんですけども、その辺はどうなんでしょうか。

○坂倉広子委員長 それでは、事務局のほうから説明をお願いします。

○平山次長兼議事総務係長 特に問合せ等もなく。

○山本哲也委員 逆に何か声をかけて、そういう声ってあったんですか。

○坂倉広子委員長 濱口正久委員。

○濱口正久委員 私ではそのところまで、そもそもがなかったで、それを知られていないのかも分からなく。言ったんですけども、それ日、曜日を変えても来るという声はなかったんですよ。

○坂倉広子委員長 ほかにございませんでしょうか。

浜口一利委員。

○浜口一利委員 3名という参加希望者があったということなんですけれども、この検討スケジュールの案を見てみると、なかなか延期とかというのは難しいしというところがあると思うんですけども、15日にこの参加者にここに来てもらってやるということでええかどうかということですか。

そうはよかったら来てもらってさ、15日、予定どおりやれば良いと思うんですけども。いろいろこのスケジュール表を見てみると、なかなか厳しいところもあると思うんですけども。

○坂倉広子委員長 ご意見ありがとうございます。

ほかにございませんか。

南川委員。

○南川則之委員 私も浜口さんと同じ意見で、事務的には市民に周知するということをしっかりやったと思うんですね。その中で人数は今回的人数になったということですけども、そういった手続をきちっと踏んできたというところで、3名の方にも延ばすこと自体もどうかと思いますし、しっかりとその3名の方も自分の意思を持って多分話ししてくれると思いますんで、そういった意見も貴重やと思いますので、そのまま進めたらどうかと私は思います。

○坂倉広子委員長 ほかにございませんか。

瀬崎委員。

○瀬崎伸一委員 そもそも定員なんかのご案内というのが募集の段階でしているんですか。何人ぐらいを想定しているというようなことも書いてあったかなと思ったんです。

何が言いたいかというと、定員にならなかったから、少なかったから延期しますとか中止しますとか、そもそも言えるのかなというのがあって、私もできればもう3名とはいえ、意見を述べたいという方がいらっしゃる以上は、そのままやっていただくのがいいかなとは思うんですけども。

募集のやつって私らっとしか見ていないもので何やけれども、何かそういうことって書いてあったんですけど。

○坂倉広子委員長 よろしいですかね。

事務局。

○平山次長兼議事総務係長 募集の段階では、応募者が多数の場合は抽せんとなりますという旨は書かせてはいただいているのですが、少なかつた場合については特に触れていません。

○坂倉広子委員長 ご意見賜りました。

ほかにございませんか。

戸上委員、どうぞ。

○戸上 健委員 衝撃的な数字で、僕もよもや3人とは予想外のことです。応募者多数の場合、僕らも多数の場合は抽せんになるということ、それは想定しておったわけで、これだけ市民の間で議員定数についていろいろ議論があるのであれば、今、南川さんおっしゃったけれども、周知は僕らは最大限徹底したというふうに思うんですよ。なおかつこれだけしかなかったということは、一体どういうふうにこれ考えたらいいか僕も分かりません。判断つかなかつた。

しかし、皆さんおっしゃるように、たとえ3人であったとしても、公募した以上、開くということを我々としては市民にアピールした以上、やるべきだというふうに思います。

○坂倉広子委員長 ありがとうございます。

ほかにございませんでしょうか。

それでは、皆さんにご意見いただいたので、予定どおり開催するという方向でよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○坂倉広子委員長 それでは、皆様のご意見として予定どおり開催するというので、それではそのようにさせていただきますと思います。

そして、この開催に当たりまして、皆様のもとにはメールで届いていると思うのですが、追加資料1の1、そして追加資料1の2の資料を見ていただいていると思いますが、いわゆる皆さん参加していただいた方にどのような位置で、どのような形でという資料を入れさせていただきました。このことについては、皆さんもちろん目を通していただいたと思いますが、ご意見がございましたらどうぞお願いしたいと思います。

河村副議長。

○河村 孝委員 これもう申込みが少なかったということは、Z o o mによる参加はなしということでもいいんですかね。

○坂倉広子委員長 平山事務局次長。

○平山次長兼議事総務係長 もうZ o o mはなしで、そのままやらせていただく予定となります。

○坂倉広子委員長 河村副議長。

○河村 孝委員 ということは、配信だけのことで、相互ではなくていつものような配信のところなんで、別段、事務局がやりやすいようにやっていただければ、どっちの形でも1案でも2案でもどちらでもいいとは思いますが、

○坂倉広子委員長 ありがとうございます。

ほかにございませんか。

戸上委員。

○戸上 健委員 ちょっと質問なんですけれども、参加者からそれぞれ意見を聞き、それに関する議員の意見を

発言していきますとあります。お三方からそれぞれのご意見をお聞きして、それに対して各議員が質疑応答のような形で、参加なさった方に対する質問をするという記述と理解してよろしいのでしょうか。それが妥当なのかということも、僕、思うんですけれども。

○坂倉広子委員長 先ほど戸上委員からいただいたご意見に対しまして、もう少し皆さんに意見を深めていただきたいというのがこちら側の思いでございます。

○戸上 健委員 はい、分かりました。

○坂倉広子委員長 山本副委員長。

○山本哲也委員 ここで決めていただきたいのは、ほぼほぼ参考として1の1、1の2つけさせていただいてますけれども、あくまでも案ということで、もっとこうしたらいいんじゃないかとかというところをいただきたくて、今回諮らせていただいています。

どっちでも、副議長、いいんじゃないかということをお願いしたんですけれども、できれば参加者3名ということですので、いつものミライトーク同様、なるべく出席者が発言しやすいように雰囲気をつくっていったらなというふうに思いますので、どっちが話しやすいであろうかですとか、その辺の感覚をできれば出席者目線であったりとか、そういったところでご意見いただければ、じゃどっちにしようかというところを決められるのかなというふうに思いますので、できましたら皆さんと一緒にこのミライトークをつくっていただければということで正副で話しして、ちょっと皆さんにアイデアをいただきたいなというところで今回この時間を取らせていただいておりますので、アイデアとか、戸上さんもそうじゃなくてもっとこういうふうなやり取りをしたらいんじゃないかとかというところがありましたら、どんどんご意見、アイデアいただければなというふうに思います。よろしく願いいたします。

これファシリテーターはもう僕って決まっていたんでしたっけ。

(何事か発言するものあり)

○山本哲也委員 その辺も含めて、もういいんじゃないか、山本君はみたいな声もあったりするかもしれませんし。

○坂倉広子委員長 やはりこのことを進めていくに至って、今回初めてのことでありますが、皆様の意見を反映させていただいて開催するというのが趣旨でございますので、こういう形、いやいやこうするべきではないかとかというのを今日いただきたいという思いでございます。

瀬崎委員。

○瀬崎伸一委員 募集していただいているときに要旨書いていただいていると思うんですけれども、内容を見ていただいたところで、結構やっと思いたいという感じのニュアンスなのか、こういう意見だよというニュアンスなのかというのが文章を読まれると分かるかなと思うんですけれども、やっぱりミライトークってあこや会さんとかとやらせていただいても思うんですけれども、輪の中に、1つの中に入ってもらおうというのもありかなとは思っているので、ロの字もいいんじゃないのかなとは思っています。

いや、違うんだと。対峙した姿勢で、もう私は強く主張したいんだというようなニュアンスの方のほうが多いというのであれば、対面というのもありかなと思うんですけれども。なかなか対面で議員に対して市民の方が意見を述べられるというのは、緊張もされるでしょうし、結構言葉も選ばれなくてはいけないし、意見が自

由に出るといふか、闊達な議論になるという感じにはならんように思うので、できれば対峙というんでなくて、輪の中にといふような、いつものミライトークのスタイルを維持されるのがいいんじゃないのかなと私は思います。

○坂倉広子委員長 意見ありがとうございます。

河村副議長。

○河村 孝委員 瀬崎委員のおっしゃるとおりだと思います。そういう雰囲気をお我々としてはつくってあげるのが一番いいといふか、それがミライトークの形ではあると思うんですけども、限られた機材の中で、いつものミライトークでなくて配信をしなければならないというところがあると思うんで、その辺で取れる形というのは限られてくるのかなと思うんで、なので多分、正副委員長はこの形の2案を出していただいたと思うんです。

通常の対面の形が1の2かな。1の1というのは、何とかその辺も折衷案として対面しない形を取ろうとした案が多分1の1にしてくれているのかなと思うんで、この1の1で配信ができる形ということであれば、瀬崎委員が言うように対面じゃない方法でということであれば、1の1で配信もなおかつできるということであれば、その方向でいいのではないのかなというふうに思うんですけども。

○坂倉広子委員長 ありがとうございます。

山本副委員長。

○山本哲也委員 すみません、この1の2案が見ていただいたら分かるとおおり、市民がほぼフルで参加しとる状況を想定したものでありまして、参加状況を踏まえながら、3人の案でというところではつくることができなかったことをまずちょっとおわび申し上げたいなと思うんですけども、瀬崎委員が言っていたところが多分1の2の案で、これがこのままペタっとくっついていくような格好でやったらできるのかなというところを皆さんちょっと頭へ入れていただきたいなというところで、参加者3名なので座るところもあれかなとは思いますが、多分1の2の案が、多分そういう形で考えてもらった方がいいのかなというところかなというふうに思います。

あと、それと15日まではちょっとお時間はありますので、僕は引き続き呼びかけて何とかぎりぎりまで参加者を募ってもいいんじゃないかなというふうにも思いますので、またやっぱり少しでも多くの方に参加していただければと思いますので、その辺は議員皆さんにもご協力いただいて、お声がけとかそういったところも続けていただければなというふうに思います。

○坂倉広子委員長 山本副委員長のほうからもお話がありましたので、1の1の方向で皆様にもちょっとご協力いただいて、再度お声がけもしていただいてというふうな形でしていったらどうかというご意見だったと思う……

○山本哲也委員 1の1というわけじゃないですけども。

○坂倉広子委員長 じゃないんですけども。

○山本哲也委員 そういうふうを考えてやったらどうかと。

○坂倉広子委員長 やはりどういふふうにしていったらいいのかって、あくまでもこれは案として試行錯誤させていただいて考えたところでございますが、よりよき方向にとおっしゃる意見があれば、意見をいただきたい

と。

河村副議長。

○河村 孝委員 副委員長のおっしゃるように、各自治会さんとか皆さん声かけてもらって、もう少し広く意見を拾えるようにするというのであれば、増える可能性があると思うんで、その辺の形というのは、方向性をとにかく瀬崎委員おっしゃったように、なるだけ参加していただいた方に話がしやすいような雰囲気をつくるということが大前提で、ぎりぎりまで増えたのかそのままなのかも含めてもう事務局と正副に一任して、当然、配信ができる形というのが限られてくると思うんで、事務局と正副でその辺はもう決めていただければいいのではないのかなと思うんですけども。

○坂倉広子委員長 瀬崎委員。

○瀬崎伸一委員 急にZ o o mやってと言ってもできるものなんですか。もうこれさえあればできる。

○坂倉広子委員長 岩井局長。

○岩井局長 実はもう申込みしてIDとか全て整っていますので、やろうと思えばできるんですが、進行上、いきなりZ o o mをといてもなかなか、要は次第みたいな形が組めないものですから、できたらもうやるならこの場という形でさせていただいたらどうかなどは思っているところです。

○瀬崎伸一委員 もうここへ来ていただくのが前提。

○山本哲也委員 Z o o mでも大丈夫ですよ。事前にもうとけば、ということですよ。

(何事か発言するものあり)

○山本哲也委員 どうしてもZ o o mやないとあかんよというんやったら別にそれでもできますけれども、ただもう直前になってとか、開始してからとか、何かそんな間際で言われる、事前に言うてもらっとけば対応はできますということです。

(何事か発言するものあり)

○坂倉広子委員長 いかがでしょうか。

濱口正久委員。

○濱口正久委員 直前まで今、副委員長、募集を呼びかけていいということだったんですけども、それもう本当にそれやって、例えば人数が多少オーバーしてでもそこら辺のところはもう、という感じなんですかね。分からないので。多いか少ないかもともかくとして、今の状況でいくと少なくて呼びかけるということですけども、その中に例えば今どんな人がいるか分かりませんが、削減に賛成の方が2名程度とか、今、話ありましたよね、もう配信されていますので。維持とかと、そういう方も見えるということも含めて、そういう方々もいますということも伝えても大丈夫なんですか。どんな人が来るんやとかというのが、もし聞かれた場合、例えばどこまでの情報は、今、配信した情報までぐらいやったら言っても構わないのかという。それはもう問題なく大丈夫でしょうか。

○坂倉広子委員長 公開しておりますので、それでいいのではないかと思います。

濱口正久委員。

○濱口正久委員 これ多分1と2の案というのは、いろいろ工夫されて狙いがあったと思うんです。人数の加減と、例えばせっかく来ていただいたんで、意見を言いやすいような雰囲気の中で決めていただければなと思

ます。そこの辺のところはもう、どっちがいいのかなというのが。

○山本哲也委員 どっちがいいと思いますか。

○濱口正久委員 僕はこの口の字型のほうが意見は出やすいと思うんですよね。例えば1だとカメラ意識して、最初はこっちのほうが意見言いやすいかなと思ったんですけども、対ファシリテーターのようになっていかへんのかなというのが見えるので、議員さんといろいろ交流みたいに話を希望するのであればそういうふうに。ただ一方的に意見を言いたいというんだっただらば、それでもいいかなと思うんですけども。お互いに意見を、考えを聞きたいとかという話であれば、口の字のほうが言いやすいのかなという気はするんですけども。

○坂倉広子委員長 とおっしゃいますと、1の2のような形ということでよろしいですか。

○濱口正久委員 そうですね。意見を聴取するのであれば。例えばたくさんいるとまた状況は変わってくると思うんですけども、今の状況でいくとそのほうが、意見をお互いに聞きたいというのであれば。

それが、向こうの意見を聞きたいわけですよね、僕らとしては。

○坂倉広子委員長 そうです。

○濱口正久委員 なので、それはどれがいいのかというのが、向こうの意見が聞きやすいような雰囲気のほうが。それに対してこちらが一々返してしまうと、いかななものかなと僕も思うので。

それが1のほうが聞きやすいのであれば、それでもいいと思います。

○坂倉広子委員長 瀬崎委員がおっしゃったような形というのが、1の2というようなイメージでしょうか。すみません、ちょっと。

○濱口正久委員 そうなんです。ほんで、中身の話を、いわゆる自分の意見を聞いてみたいという、なのか、意見を言って。それとも主張があって、もうばんとぶつきたいというのかによっても、多分そこで違ってくるような気もせんこともないんですよ、僕も。分からないので。今の状況では分からないです。どっちでも対応できるなら僕は口の字だと思うんですけども、それがいいのかどうなのかも分かんない。

○坂倉広子委員長 ここで皆さんの合意をいただかないと、私たちもどう……

(何事か発言するものあり)

○山本哲也委員 その辺も含めてどういうあれかなと思いつつ、ちょっと皆さんの考えも聞きたいなというところがありまして。

女将さんとさせてもうとるときと違って、間にも入ってもうとるわけやないですか。

○坂倉広子委員長 そうですね。

○山本哲也委員 なんで、ああいう雰囲気でできたりすると思うんですけども、そっちだけが市民と違ってなると、口の字でもなかなかあの雰囲気って出せるのかなとかってなってくるんですよね。回数重ねてきた分との違いもあるかもしれませんが。実際ファシリやれと言われて、ちょっとどう雰囲気つくれるかなというところで、悩ましいなとは思いつつ、もうとるんですけども。

○坂倉広子委員長 浜口一利委員。

○浜口一利委員 私は席の配置というのはあまり重きを置いていないので、自分的には。テーマになって考えてはいるけれども、この一応例として定数の削減、現状維持、それぞれの考えの参加者より意見をいただいて、

その後、議員の意見を発言していくというようなこの形というのが、これでいいのかどうかというのがちょっと私は不安なんで、何かこういう想定されることを考えると、参加された方に対して議員がいろいろ言うというのが、何か対立構図みたいになっていかへんかな、それはファシリテーターの腕次第で十分大丈夫とは思いますが、私的にはやはりせつかく各ケースに係る主な意見というがあるわけなんで、当然、参加された方の意見は先に聞いてというのは前提なんですけれども、例えば定数が増加時のメリットってあるけれども、増加ということはないけれども、定数がそのままのときとか、デメリットとか、いろいろ書いてあるこれについて一緒に話をするという形というのを、そんな形でやったほうがいいのではないかなと思う。

当然、さっきも言ったように参加者の意見は聞いて、それなら一緒になって定数が少なくなったらどんなことがあるかなと、そんな話で時間を取ってもらってという、そんなやり方のほうが私はいいと思うんですけれども、どう考えとるのかな。

○坂倉広子委員長 山本副委員長。

○山本哲也委員 ちょっと書き方として、「議員の意見を発言していきます」と、「意見」と書いてしまうのであれかなと思うんですけれども、参加者の方もそれぞれ考えあつてご意見言ってくれると思うんですけれども、その意見の基になっておる考え方とかということも深く聞いていただいてもいいのかなというところで、質疑応答じゃないんですけれども、そういうやり取りがあつてもいいんじゃないかなと。

この間、皆さんに話ししてもらった、さっき一利委員も言ってもらったメリット、デメリットを話ししてもらったと思うんですけれども、削減したほうがいいよという方に対してでも、デメリットのところはどう考えとるかですとかということも聞いてもらってもいいんじゃないかなと僕は思っていますんで、参加者の考えをもっと掘ってもらうとかということをしていただく時間があつてもいいかなというところで、こういうふうに書かせてもらっています。

なんで、その辺をどう解決しながらどうしていったらいいかとかということの話ができればと思うんですけれども、いかんせん参加者が少ないということは、1人当たりの発言時間も時間いっぱいしようと思つたら増えてくるわけですので、その辺の問いかけとかという部分をしっかりしていただかないと、予定しとる時間ありますけれどももたない。30分ぐらいで下手したらもうしゃべり切って終わってしまう可能性がありますし、それでいいんじゃないかということかもしれませんけれども。

ということころも考えまして、なるべくファシリテーターと参加者がやり取りするのは何ぼでもできると思うんですけれども、そうじゃなくて、できれば交互で議員さんからもそこについての考えとかという部分を出してもらってもいいのかなとは思つとったんですけれども。難しいなと思っています、逆に。

(何事か発言するものあり)

○山本哲也委員 こうしていこうと思うと、議員もある程度もう色を出しといたほうが進めやすいのかということころも考えると、なかなかどうしていったらいいかなと、僕自身もどう進めていったらいいのかというのがまとまっていないような状況なんで。

(何事か発言するものあり)

○山本哲也委員 対立はもちろんないようにはしますけれども。

○坂倉広子委員長 浜口一利委員。

○浜口一利委員 TOBAミライトークということなんで、ミライトークというのは一緒に考えていこうという話なんで、そのあたりを重点的にやればいいと思うんですけども。そこが大事だと思うんですけども。

○坂倉広子委員長 河村副議長。

○河村 孝委員 もともと公聴会で意見を聞こうというのがスタートなんですよね。ミライトークの形にちょっとアレンジしたということなんですけれども、基本的には公聴会がスタートなわけなんで、副委員長言うように、まず参加していただいた人の意見を聞くということが大前提で、議員から出る質問に対しても議員の考えを述べるのではなくて、なぜそのような意見になったのかというその質問に対しての質問というか、そこを深掘りしていくというところのスタンスでいいんだと思うんです。だから対立にはならない。

とにかく議員としては、せっかく参加していただく人の意見をまず聞くと。ほんで、自分の中で分からないところがあれば、それを質問するというスタンスが基本になろうかとは思いますが。

○坂倉広子委員長 ありがとうございます。

○山本哲也委員 それを目指したいなと思っております。

そうしようとすると、やっぱりロの字のほうがりやすいのかな。

(何事か発言するものあり)

○山本哲也委員 多分、1の1やとあれじゃないですか。3人とかやと片っぽうがもうがら空きになってくる感じやと思うんで。

(「これでええんとちゃうん」の声あり)

○山本哲也委員 ロの字で進めるような形で。

(何事か発言するものあり)

○山本哲也委員 机、外してあってもええぐらいですもんね。

(何事か発言するものあり)

○山本哲也委員 ああ、なるほどね。

○坂倉広子委員長 イメージが皆さんも湧いていただいたかなとは思いますが、ほかにございませんか。

○山本哲也委員 進め方に関しては、さっき言ったような感じで進めていければなど。戸上さん、最初に質問いただきましたけれども、そういう形で進めていければなどというふうに思っています。なるべくそういう努力をしていきます。

○坂倉広子委員長 戸上委員。

○戸上 健委員 ファシリテーターが山本副委員長なんで、全くそれは心配ないというふうに僕は思うんですけども、僕がちょっと懸念したのは、3人の供述人というか参加者の方が発言なさって、議員は14人いるわけなもので、それぞれが発言された意見に対していろいろ疑念やそういうものを呈すると、僕はそれはまずいんじゃないかというふうに思いましたもので、河村さんおっしゃったような方向で妥当やないかというふうに思います。

なるべく僕は意見を控えて、これはどうしても聞いておきたいなという点に絞って、それはファシリテーターがやってくれるというふうに僕は思うんですけども、あと議員間の討論というのが別にあるわけなん

で、そこで議論を深めるのが筋やないかというふうに思います。あくまでもミライトークでは、名乗り上げていただいたそういうお三方の意見を僕らとしては十分お聞きすると、尊重するという姿勢に徹するべきやないかなというふうに思います。

○坂倉広子委員長 ありがとうございます。

○戸上 健委員 何かあれば、議長がちょっと議会はこういうふうにとるというふうにおっしゃっていただくか、委員長がおっしゃっていただくか、それでいいんじゃないかなというふうに思います。

○坂倉広子委員長 議長。

○木下順一議長 冒頭、事務局から市役所で傍聴される方が3名ある、そのあたりももう一度参加してもらうようお願いするのも1つかなと思いますし、さっき直前までまだ参加者を声かけて寄せるという話あったと思うんやけれども、それはもう現状維持の方、削減の方、均衡を取らずにもう集めてしまうのか、ここへもし人数が少ないところ、何か偏ってしまうとせっかく来ていただいた方、意見が言いつらくなっていかにへんやろうかなというのちょっと心配したりもするんですけども、そのあたり再度、傍聴者にも参加してもらえないか頼んでもらったりできないかなとは思っています。

○坂倉広子委員長 山本副委員長。

○山本哲也委員 最悪、傍聴者にも僕、振ってもいいかなと思っているんです。これだけの人数ですんで、しゃべりたいことがあればその場でしゃべってもらってもいいかなというふうにも思いますんで、その辺は柔軟に対応していきたいなというふうに思いますし、それと呼びかける際の均衡をどうしようかというところやと思うんですけども、僕、もう考えんでもいいかなと思っています。削減する方が多かって現状維持の方が少なかった、また逆もしかりですけども、それぞれの考えがそれぞれの方に伝わっても、もうそれはそれで僕はやる意義あるのかなということがあるんで、それぞれの間考えてもらったメリット、デメリットもありますし、そういったところもそれぞれの考え持っている方に知っていただくというのも大事ななというふうにも思いますんで、その辺は気にせずお声がけしていただいて、参加呼びかけていただいても僕はいいんじゃないかなというふうに思っています、その辺は何とかファシリテーションのほうでカバーできればなというふうにも思っています。

できればもう少し多いほうが回しやすいなというふうには思いますんで、お知り合いの方とか、次の出馬考えられている方とか知っているようでしたら、お声がけしてあげるといいかなというふうにも思いますんで、よろしくお願ひしたいなと思います。

○坂倉広子委員長 ご意見はいただいたということでよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○坂倉広子委員長 それでは、ご意見を賜りましたので、そのようにしたいと思います。

続きまして、協議事項2、その他について、今後のスケジュールについて、先ほど検討結果を踏まえて事務局から説明をさせます。

平山次長。

○平山次長兼議事総務係長 今回、スケジュールどおりいくということで協議のほうが進まれましたものですから、スケジュールについても当初の予定どおり15日にミライトークのほうの実施、19、23と6月4日、

17と委員会のほう開催のほうをしていきまして、ミライトークの振り返りから議員間の討論のほうに進めていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

事務局からは以上です。

○坂倉広子委員長 事務局のほうから説明をいただきました。

それでは、ご協議いただく案件は以上でございます。

次回、議会改革推進特別委員会を5月19日木曜、午前10時から開催したいと思いますので、ご参集をお願いいたします。

本委員会において各議員の意見を発表していただきたいと思いますので、後日配付いたします意見用紙への記入の上、事務局へ提出をお願いいたします。記入の際は、各自定数の増減等とその理由について、現状維持であればなぜ現状の定数を維持する必要があるのか、減員するのであれば減員した場合に出る悪影響をどのように回避するのか等、その理由となる根拠を記入していただきますようお願いいたします。

これをもちまして議会改革推進特別委員会を散会いたします。

(午前10時40分 散会)

委員長はこの会議録をつくりここに署名する。

令和4年5月10日

議会改革推進特別委員長 坂 倉 広 子